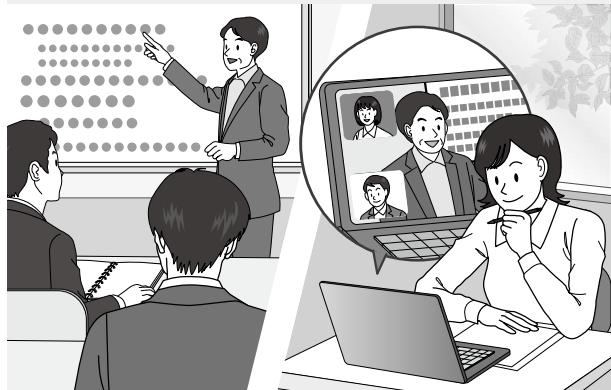


連載

# 進学塾に学ぶ ハイブリッド な教え方



第⑦回

## 【オンラインの研修】 オンデマンド学習 内製化のコツ①

市進ホールディングス  
コンサルティング事業研究所 所長

細谷幸裕

ほそや ゆきひろ

1996年、株式会社市進入社。現場を経て、2005年より同社教育本部教務統括室にて講師養成に携わる。2008年からは全国の教育委員会・私学での教員研修の講師を務めるようになり、現在は企業・官公庁を中心に、「社内講師養成」、「OJTトレーナーのコーチング」、「説明力強化」などの研修・コンサルティングを行っている。

前回と前々回はオンラインライブ研修でのデザインとファシリテーションのポイントについてお伝えしました。今回と次回は、非同期でのオンライン学習について、主に動画コンテンツの効果的な作成と運用方法についてお伝えしていきます。

### オンデマンド学習の特徴

オンライン研修の中でも、受講者にリアルタイムで提供するオンラインライブ学習に対して、主に録画コンテンツによる非同期型の学習をオンデマンド学習といいます。塾予備校の世界では、このオンデマンド学習の成果は十分証明されており、これまでの集団授業のような同じ時間帯に生徒が集まり、同じ講義を同じペースで学習するスタイルが減ってきているのが現状です。

オンデマンド学習のメリットは、「いつでも・どこでも・何度でも」という視聴スタイルであり、とくに「学習の個別化」という点がキーワードになります。従来のリアル集合型の学習は、理解度に差のある生徒集団や学習科目の多様化には不向きとされていましたが、オンデマンド学習によって学習者は必要なものを必要な時間をかけて個別に学習できる環境が整ってきました。

### オンデマンド学習教材のデザインのポイント

最近のオンデマンド学習教材は、1つの研修に対して短い動画を数本合わせて制作する傾向にあります。理由は、動画視聴の際の集中力持続の問題や、細切れ時間に合わせた視聴促進、一度に大量にインプットさせない学習効果への配慮などがあるためです。

一方で、「学習の個別化」という観点では、その動画の作り方において、従来のリアル集合での研修設計とは異なる構造をとる必要があります。たとえば、リアル集合型の研修では、講師が教えるだけでなく受講者同士で学び合ったり、その場で質問できることが最大のメリットであり、モチベーションになっていました。しかし、オンデマンド学習ではこれらが物理的にできず、このデメリットをカバーしてコンテンツを作成する必要がでできます。

逆に、オンデマンドだからこそ、理解度に応じて個別学習がしやすいようにコンテンツを組み合わせることができます。必要に応じて飛ばし視聴や高速視聴を推奨するといった強みを活かすことができます。とくに動画の制作（内製化）においては、従来のリアル集合型の構成のままで収録することはおすすめできません。というのも、1つの研修を分割して収録する場合に、たとえば、それぞれのつながりをどうするのか、終わり方やまとめ方をどうするのか、そして何より、従来のグループで実施していた演習場面をどうするのかといった、設計部分の変更を余儀なくされるからです。

このような場合、オンデマンド化においてまず最初に考えるべきことは、プログラムデザインの方針をすべてのコンテンツにおいて統一しておくということです。具体的には、冒頭場面でその学習の概要・目的・目標（ゴール）・進め方について提示することはもちろんですが、その前後の映像においても同じ方針で一貫性をもたせていくことが重要です。言い換えれば、オンデマンド学習教材の作成は、長い動画を単純に分割したり、場当たり的に続編を作っていくものではなく、収録の前には全体のゴールを明確に設定し、分割して作成される個々の映像が全体のゴールの一部を達成していくような構造化された設計になっていることが不可欠ということです。

わかりやすい例として、たとえば英語の不定詞という単元を作成するのであれば、単元は①名詞的用法、②形容詞的用法、③副詞的用法、④まとめという4回の構成になります。そして①～④のそれぞれの冒頭では既習事項の確認からはじまり、不定詞全体で学習するゴールとそれぞれの単元での学習ゴール（スマートゴール）を明確にしてから講義に入っていく内容になります。また、各回の最後にはまとめや確認テストなどを盛り込み、個別学習に適した設計にします。

### オンデマンド学習に適したインストラクション

塾予備校業界での講義動画では、いまでも黒板とその横に講師がいる配置になっていて、解説と板書で講義が展開されていくのが一般的です。一見、昔ながらのアナログな手法にみえますが、ここにはオンデマン

図表 オンデマンド講義の動画制作のポイント

#### 1 「学習の個別化」に適した設計

→受講者が必要な情報を必要な時間で学習できる設計にする

#### 2 研修全体のゴールを設定してから講義を分割

→分割した講義それぞれの展開を統一させていく

#### 3 イントロ3原則による講義

→「既知から未知」、「具体から抽象」、「シンプルに見せる」

ド学習に適した講義手法が随所に盛り込まれています。

たとえば、板書であれば「準備板書」といって、講義開始前にある程度の板書を行ってから講義をはじめるとあります。これは板書時間の短縮とその後の講義の前提情報の共有を目的としていて、講師は板書の情報に加筆しながら効果的に授業を展開することができます。

また、解説手法においては、「イントロ3原則」という、すべての講義に適用できる効果的な手法があります。これは主に新規事項をレクチャーするときに効果的な手法で、①既知から未知、②具体から抽象、③シンプルに見せる、という3つの原則で構成されています。これを先ほどの不定詞の講義に絡めていうならば、不定詞というのは文を修飾する言い回しの一種であって、形容詞や副詞の機能と似ているという既習事項が活用できる観点から入ります。そして、その入り方も「to+動詞の原形」といった抽象的な説明から入るのではなく、具体的な例文をもとに既習事項との比較で抽象化し、短い時間で簡潔に見せていく講義をめざします。

この講義法は成人であっても十分効果的な教授法であり、オンデマンド学習のような短時間のなかで勝負する講義場面においては役立つ手法になります。

\*

次回は、オンデマンド学習の運用方法について解説していきます。